

いこいの村 しまがため子

題字 梅の木寮（ユニット型）

2012年（平成24年）6月20日発行

第361号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会
〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

内 覧 会 に 1 5 0 名 !
パ ン の 試 食 コ ー ナ ー も 大 賑 わ い !



たからの里がオープン！
人が行き来する里に！



山崎善也綾部市長も激励に駆けつけてくださいました。



栗の木寮の仲間の皆さんがパンの販売担当です！

六月一日、さわやかな天気の下、「たからの里」がオープンしました！この日の内覧会には、地域の皆様等、一五〇名の方々がお越しくださいました。

「たから保育園として使っていた頃を思い出し、懐かしく見せていただきました。建物が残っていると本当にうれしく思います。こんな使い方をしていただき、近所に住む者として何かうれしく思いました」「人が行き来する良い里にしてください」などあたたかな感想を寄せていただきました。

たからの里で製造する石窯パンは、火曜日と金曜日の午後二時から四時半にお買い求めいただけます（※曜日が変更になる場合があります）。地域に根付いた施設となるように努力してまいります。

（栗の木寮 木村公之）

「食」を楽しむ

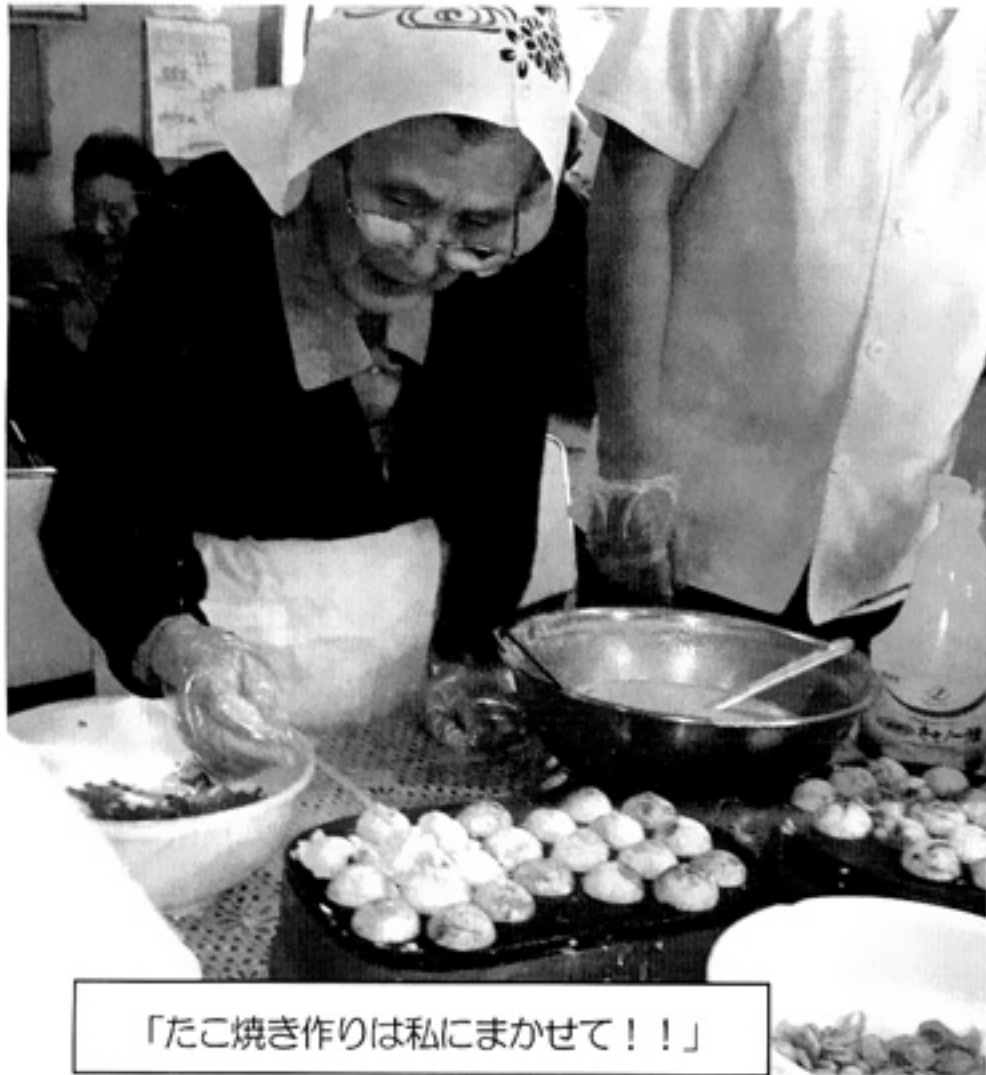
～食べる「たご焼き作り」～

綾部東部デイサービスセンターでは食を楽しむ取り組みとして、利用者からの要望をもとに、クレープやパフェなどを作って食べることを楽しんでいきます。

待ちに待った たご焼き作り

五月十九日「たご焼きまつり」を行い、一九名の利用者が集まり、多くの仲間と一緒に楽しいひとときを満喫されました。

「今からたご焼きをつくらましよう。お昼に食べるので、たご焼きを最低二〇〇個は作らなければなりません」「ゆめ」と職員が声をかけると、「今日はエプロンを忘れんように持ってきたんや」「



「たご焼き作りは私にまかせて!!」

と、エプロンや割烹着を身にまとった利用者が集まります。「二〇〇個つくらんなんから、はよせんと間に合わんで」「私はタコを切るから、あんなはキャベツを切って」「長年の経験で培った腕前はさすがです。手際良く準備

が進みます。一生懸命に竹串で形を整えますが、「こんなことするのは初めてやで上手にできひんわ」「焼くんは久しぶりやで、難しいなあ」「最初は思うようにいきません。しかし、回数を重ねていくうちに手つきも慣れ、きれいな丸い形のたご焼きが完成しました。

思い出を残す

たご太郎

たご焼き作りと同時に思い出を残そうと、たこの人形をつくりました。「この布を月の形に切って、二枚を縫い合わせて下さい」「何ができるんや」「その布が八枚欲しいです」「これは…たこの人形か!」「丸い頭に八本の足が付くと、これ、よつできとんなあ」「と、とても愛らしいたこの姿に、自然と笑みがこぼれます。「はちまきを巻いたらもっとかわいいので、作ろうか!」「名前はない…。たご太郎が良いわ」

皆で一緒に食べるたご焼きは格別で、「おいしかったわ!またこんなことを皆でしたいなあ」と、気持ちもお腹も満たされたようでした。



みんなのアイドル!

「食」から得られる大切なもの

自分たちで作って食べる取組みは、「材料と分量を教えたい」「欲しい」と言われる方も多々おられ、利用者の食生活の向上につながるものと考えています。

今後も、デイサービスでは「食」の取り組みを通して利用者自身が食を考え、日々の暮らしが充実するように、サポートしていきます。

(高齢福祉部デイサービス係

谷垣 毅)

「いこいの村」 30年
 いこいの村創立30周年記念集会
 「いこいの村」

今年、いこいの村聴覚言語

障害センターは、創立30周年を迎えます。聴覚障害者が主体となって運動を起し、一九八二年(昭和五七年)五月、いこいの村・栗の木寮が開所しました。

開所に至るまでに、尽力された多くの関係者と、日頃ご支援いただいている方々に感謝の意を表すると共に、より多くの方々と創立30周年をお祝いしたく、10月10日(土)午前10時30分から、記念集会を開催します。

午前8時、口上林体育館にて、記念式典と記念講演を行います。

ていただきます。

福島原発事故が起きてから、原子力発電についての関心が高まり、大飯原発再稼働についても新聞などで報道されています。とりわけ京都府綾部市の上林地域は、高浜原発の20km圏内に入っており、より身近な問題として考えるを得ません。ぜひ、この機会に知識を深めていただきたいと思います。

午後からは、会場をいこいの村に移し、記念式典と模擬店を行います。

記念式典では、来場者の皆様に楽しんでいただけるような企画を検討中です。模擬店では、約30店舗の出店を予定しており当日は多くの来場者で賑わうことと思います。

また、いこいの村施設内の地域交流スペースでも、午前

の式典・講演、午後からの祭典をスクリーンで見られるよう予定しています。

創立30周年記念集会を開催するに当たり、テーマを「ありがとう 30年 これからも共に」とさせていただきます。

皆様と共に歩んできた30年、そしてこれからも共に歩んでいきますようにお願いを込めました。

当日は、より多くの方々の来場を心よりお待ちしております。

(30周年記念集会担当)



昨年の祭りも沢山の方に来ていただきました



いこいの村・梅の木寮 施設長 奥本 初実

安らかな最期に

寄り添うということ

梅の木寮では、四月に四人五月にも二人の利用者を見送りました。年度初めの短期間にこのように多くの方をお見送りしたのは初めてで、既に例年の年間退所者数の半数にもなります。

厚生労働省によると、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)における退所者のうち、約三割が施設内で死亡、約三割が病院で死亡、約三割が病院等へ入院している」と言われています。また、死者全体では、医療機関で亡くなる人が八割ほど、在宅で亡くなるのは一割ほどというデータもあります。

梅の木寮では、先の六人のうち三人をご家族と一緒に施設で看取りました。医師が医学的に回復の見込みがないと診断したとき、ご本人やご家族と担当医師が、「よい死な

族と担当医師が、「よい死な」のような最期を迎えるのか」を話し合われます。梅の木寮としてもこの決定を支持して、可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな最期を迎えられるよう医師との連絡を密にしながら、ご家族と一緒に看取り介護をさせていただきます。

介護老人福祉施設は、医療機関(病院等)ではないので、終末期にできることは限られます。生活援助員(介護職員)と看護職員等は特別勤務体制を組んで、苦痛を取り除き、声や息遣いに耳を傾け、語りかけながら、寄り添って最期のときを過ごします。

介護老人福祉施設が、「生活の場」として位置付けられるからこそ、看取り介護は、生活の場の延長上にあるものだと言えるでしょう。できることごとその役割を理解して、利用者が住み慣れた場で最期まで暮らし続けられる・・・このような支援が梅の木寮に求められています。

